



カショギ(反体制サウジ記者)殺害に見るトランプとMBS

カショギ記者は婚約者ジェンギズ(トルコ諜報部の回し者)との婚姻手続の為アポ時間 10月2日にイスタンブールのサウジアラビア領事館を訪れたがその後行方不明になりサウジに殺害されたとの疑惑が広がっている。

カショギ記者はプロのジャーナリスト。サウジ領事館に行けば圧力を受けることはわかっていたので自分との会話が即時発信されるデバイスを隠し持ち婚約者(トルコ情報部)に伝えていた。カショギ氏が領事館にアポを取った直後から訪問するまでにサウジからムハンマド皇太子(MBS)のボディガードを務めていた二人と検視官を含むスタッフがイスタンブールに入国した。(記録と映像が残されている)トルコ当局が持っている MBS とサウジ政府による同記者殺害の確固たる証拠は時が来るまで明かされない。MBS が指示したことが明らかになれば、トランプも対サウジ制裁に踏み切らざるを得なくなり、国連の高等弁務官がサウジの外交特権を取り消すと述べる等サウジは国際社会から孤立する。

国際銀行団からの PIF(サウジ公共投資基金)の借入金 1兆2千億円規模もご破算になるだろうし、100%代替可能エネルギーのスマートシティー計画(5,000億ドル)やスーパーチューブ(超高速運搬システム)のバージョンアップの参加も見送られるだろう。

MBS はサウジの全権を掌握する為なりふり構わぬ「臭いモノには蓋」の粛清政治を行ってきたのでアフマド元内務相やハリド・ファルハン王子など反 MBS の王族は英国やアメリカに亡命、MBS 政権転覆を策している。

今回の事件は明らかに MBS の独裁体制崩壊とトランプ降ろしを狙った「陰謀」である。MBS に国交断絶されたカタールにトルコ軍とイラン軍が駐屯、イラン、トルコ、カタール、それにサウジ内反 MBS 勢力の協力を得て対サウジ戦争の準備が進んでいる。

「MBS は保守、伝統的サウジを近代化する立役者だ」と言われるが、本来「改革・解放」は伝統的独裁国家には現実的ではなく、単なるポピュリズム効果しかない。

MBS とトランプは現行体制に挑戦している点は同じだが、MBS は「本気」でトランプは単なる「駆引き」の一環でしかない。トランプはアメリカの現行体制の改革が出来るなど初めから考えていない。旧体制(イスラエル左派)の利権をどれだけ現体制(イスラエル右派)が取れるかである。だから本気の MBS は崩壊し、駆引き上手なトランプは崩壊しない。すべては 2020 年の中東大戦争の為である。

詳しくは「小冊子」Vol. 102 参照のこと

増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

現在、増田俊男の「ここ一番！」を FAX 又は e-mail にて配信しております。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S.リサーチジャパン(株)Tel：03-3956-8888、HP：www.chokugen.com まで。

【最近の配信履歴】

- 10月18日(木) No. 843 台風一過
- 10月11日(木) No. 842 ドル・円の宿命
- 10月9日(火) No. 841 もうしばらくの辛抱
- 10月4日(木) No. 840 ドル・円相場トレンド

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。